



最悪の事態 DXで可視化

東京・八丈町の訓練支援

オリコンサル

オリエンタルコンサルタンツは、東京都八丈町が14日に実施した「国土強靱化地域計画に基づく全庁職員訓練」を支援した。八丈町では同社の支援を受けて国土強靱化地域計画を3月に策定している。

その実効性を高めるため、DX（デジタルトランスフォーメーション）技術を活用し、全庁職員が起り得る「最悪な事態（リスクシナリオ）」を具体的に想定・共有するとともに、東京都八丈支庁や八丈島警察署など関係機関と連携した訓練を実施した。

この日は、内閣府のナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会で防災担当を務めた小林一樹東京都立大名誉教授が「国土強靱化地域計画とは、強靱な八丈町をつくらう」と題して講演した後、オリコンサルが3次元データを使って作成した「3Dアイランドマップ」に、津波シミュレーション結果を再現し、同島内で発生し得るリスクシナ

リオを、自らのリスクとして共有した。

さらに、火山噴火や土砂災害も同様に重畳することで、あらゆる災害リスクを見える

化し、参加者は7班に分かれてグループワークにより、リスクをより明確にするイメージトレーニングに取り組んだ
写真。

訓練後に、山越整副町長は、「各職員が町のリスクを知り、行動に移す良いきっかけとなった。また八丈町の地域強靱化を関係機関とも連携しながら全庁的に取り組むことの必要性が認識できた」と講評。

小林名誉教授も「従来の定量的被害想定を自分ごとにするため、DX技術による『視覚的な見える化』や、被災ストーリーとしてシナリオ化する『認識的見える化』の活用が重要であり、今後も継続的に取り組むことが必要だ」と総括した。